
今井君と私

むいな S号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今井君と私

【Nコード】

N0661C

【作者名】

むいな S号

【あらすじ】

「私」と「今井君」のある日ある時、ある場所での些細な出来事。

(前書き)

この作品は以前私のHPに載せた作品ですので、知っている方もいるかもしれませんが、どうかお読み下さい。

今井君 と わたし

「ねえ、『哀しい楽しみ』と『楽しい哀しみ』のどっちが好き？」
「は？」

やばっ、やっぱこんな質問はアウトだったかな？ まあ、そりゃ
そうだね。矛盾し過ぎているものね私の質問……。うん……。
でも、今井君は真剣に考えてくれている。いつもの朗らかな顔だ
けどこのような真剣な瞳がとってもカッコいい。

「……んー、…………やっぱ『哀しい楽しみ』、かな」

そう来たか。今井君は楽しいことが何事も好きなキャラだから、
『楽しい哀しみ』にいくかと思ったけど。

「なんで？」

「なんでって、…………ねえ、……。やっぱさ、どんなに楽しくても哀
しいことだったらいやじゃん。でもさ、哀しくても楽しいことだっ
たらなんか楽しめるでしょ。…………と、言いつつ思うけど、なん
か矛盾しているね。ハハ」

楽しくて楽しい……。

哀しくて楽しい……。

『楽しくて哀しい 哀しくて楽しい』と、なるか……。

なんか、矛盾しているよねえ……。

考えている私の顔が何か変に見えたのか、今井君は慌てて口を開
いた。

「あ、えと、ほら、例えばさ。死ねば良いと思っていた身内が死ん
で楽しいのと、家計が苦しいけど赤ちゃんが産まれてくるの、この
二つを前頭にして考えてみたら分かるんじゃないかな？」

あー、なんとなく分かった気がした。

なるほど、ねえ……。って出題者の私がこれじゃあ、駄目じゃん。考え過ぎていたために歩く速度が遅くなっていったのに私は気づいた。そして、今井君が速度をあわせていた。今井君は普段人一倍の速度で歩いているのに対して、私は人一倍遅い（さらに、その分短気……）。それなのに、速度をあわせてくれるのは結構きついであるだろうに。わざわざそんな事までする、そんな優しさが彼の良いところだ。

「……………」

「……………」

沈黙が流れた。

やけに痛い。

この痛さが嫌いだから、わざわざ変なネタを振ってしまったのだが、悪手だったか。

彼は徒歩、もしくは走りで登校。私は自転車。グリップを握っていた手がやけに痒いのは、焦燥による汗かきからだろう。……わたしって、いったい。

私は押していた自転車を自動販売機の前に止めた（かゆみに負けたからではないぞ）。

「ジュース、……奢ってあげるよ」

「えっ、いや、そういう訳にはいかないよ」

「いいヤツ、わざわざ面倒な質問に答えた上、ヴァカでも分かるような説明を付けてくれたんだ。これにはちゃんとお金を支払わねばならない。というか、ジュースくらいだったら小さすぎる程度だ」

「いや、だから、そんなたいした物じゃな——」

「はい、炭酸飲料！」

「いや、体に悪影響が——」

「はい、青汁！」

「いや、確かに健康的だけど、苦——」

「はい、砂糖水！」

「いや、あの、お金がもったいないよ。というかこの自動販売機は

何なの？ 分かりましたっ！ だからもうコイン投入しないで！
全部アリガタク吞マセテ頂キマス。」

明るい笑顔が其処にはあった。

(後書き)

◇アトガキと言う名の戯言◇

この作品は実際の今井君とは全く関係いたしません。居ますが。なんとなく思い付いたので、そのまんま文章化してみました。

五分でここまでとは流石俺w、受験が目の前ですが。でも文章能力は乏しい。

まあ、本当に大したことのないことを作者の頭をフル回転させて解明したもので、せめて何も言わずに影から笑って下さい（えでも、幸せと言う存在は様々な形であると思うのですよ。幸せなことが幸せなのか、幸せであることが幸せなのか（訳わかんねえよ）。

生きていること自体が幸せだと言う人もいます。

様々な苦難、様々な試練、様々な不幸、それら全ては幸せへの階段だと私は考えているのです。

まあ、こんなありふれた言葉を述べても何にもなりません。とりあえず、今後も私を影から（略

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0661c/>

今井君と私

2011年1月25日04時10分発行